

「授業備品」N086 L1.6.24「8回以上のアクティブ」

教科担当任せの授業、教科間での学びの決めごとがない授業、座学だけの授業では、全子供の主体的な学びは出来にくい。そうした改革で出てきたのがアクティブ・ラーニングだ。アクティブ・ラーニングの一番の魅力は、教師ではなく子供たちが主体的に伸び伸びと自ら動くことである。今回紹介するアクティブな動き8～9回は一つの目安であり、各自で模索するとよい。なお、アクティブな動きが有効な手段となっているか、授業のねらいに沿って活用しているかを常に考えながら指導するのは当然なことである。

1 「前時の振り返り」を各自が立ち、「ブツブツタイム」のアクティブ

全員が立ち、自席で振り返りのブツブツタイム（全員が主体的）

2 「課題を3回読み」を各自が立ち「ブツブツタイム」のアクティブ

全員が立ち、自席で振り返りのブツブツタイム（全員が主体的）

3 自力解決後の情報収集のための「ぶらぶらタイム」で歩き回るアクティブ

学習が苦手な子供にとっては最高の良い瞬間である。また自分が考えた以外の解決方法を学級全員から情報をつかむことができるメリットがある。

4 「ペア学習（4種類）」で立ち情報交換のアクティブ

ペア学習のメリットは、気軽に意見が言え相談できる、自分の考えを確かめ自信をもてる、自分と違った考えに気付くことができる等である。そのペア学習（隣同士）はいつでも出来るため、立つアクティブが出来ない。隣同士は最終手段とし、クロスペア（2種類）、縦ペア、飛びペアなど立たざるを得ないペア学習を行うとよい。

5 「グループ学習」で全員が「ホワイトボードに書く」、手を出すアクティブ

グループ学習のメリットは、自分の考えを深め、広げられる、学習が遅れがちな子供や消極的な子供も発言しやすく話し合いへ参加できる、子供同士で主体的に学習することができる等だ。発言力があったり、理解が早かったり する一部の子供たちの意見に偏らず、全員で協力して学習を進められるかがグループ学習のカギである。

○グループ学習の具体例

①各自が本時のキーワードを参考にして、ホワイトボードに絵・図・言葉・表・グラフ・式等にまとめる ②付箋に各自の考えを書き班でグルーピングする ③各自や班全体の意見を短冊にキーワードでまとめる ④それぞれの考えを出し合い、線をつないでいく（ウェビング法） ⑤資料にグループの考えを書き込んでいく ⑥違う点を話し合う ⑦役割を決めて話し合う ⑧グループ内で意見の違いを討論する

6 「全員でまず意見を出し合う㊤」で前か後ろに集合して話し合うアクティブ

○意見を出し合う話し合う方法例

①ワークシート・ノート・ホワイトボードに書かれた各班の考えを見る ②同じ点、違っている点、似ている点に焦点を当てて比較・分類をする ③互いに異なる資料について調べたり考えたりしたことを聞いて話し合う

7 「㊤察」で前か後ろに集合して話し合うアクティブ

○考察の方法例

①課題を再度、確認をする ②各班のホワイトボードから出てきた短冊を使い課題解決の構造化を行う ③ウェビング方法でまとめる ④それぞれの考えを出し合い、線をつなぐ（ウェビング法） ⑤課題につながる内容の意見の集約をはかる ⑥全グループが順番に発表するだけでは深まらないので、各グループ学習の学びを全体で学びの深まりにつなげるのが学習リーダー（教師も含む）の役割

8 「まとめ」を書き各自が立ち「ブツブツタイム」のアクティブ

主体的なまとめのために自分な理にまとめさせ、ブツブツタイムを行う。（全員が主体的）

9 「振り返り」を書き各自が立ち「ブツブツタイム」のアクティブ

主体的な「振り返り」のためにブツブツタイムを行う。（全員が主体的）

*教師の指名や意図的指名が当然であった。そこには教師対子供の1体1があった。子供同士の学び合いにはなりにくい。①子供同士が指名をする ②自然発生的に発表する ③自ら進んで発表する形を追い求めたい。